Vol.2016-MPS-108 No.13
Vol.2016-BIO-46 No.13
2016/7/5

世界日本学モデルベースシステムによる安寧空間構築の研究

沢恒雄　　遊工学研究所

概要：環境・社会・経済は,トリレンマの状態にある。地球上の人口は,22 世紀に 100 億人になると予測されている。人口増加率と工業化率を低減させることでトリレンマを緩解することを提案した。世界日本学を提唱した。この思想でモデルベースを構築して,その運用過程でバランスの取れた状態にする方略を考察した。

キーワード：ＧＭＰＩＡ，安寧空間創成,トリレンマ

A study of well-being space construction due to the GMPIA

Tsuneo Sawa

Summary: Environmental, social and economic, in the state of the trilemma. Population on Earth, are expected to be 10 billion people in the 22 century. It was proposed this to alleviate trilemma by reducing the rate of population growth and industrialization rate. Proposed a world Japanese Studies. To build a model based on this idea, we discussed the strategy to be in a balanced state in the operation process.

Keywords: GMPIA, Well-being space creation, Trilemma

１．背景　【問題】[10～11]

糸川英夫博士は,「人類は２２世紀に滅亡する」と主張した。２２世紀に人類は 100 億人になり,それを生かせる地球資源はなく,加えて人口増加率の視点から種の滅亡の目安が, d H/ d T=∞の現象となった時としている。現代の人類のありようは,際限なき欲望に限界を無視した生活をしていることである。「個と集」の欲望が肥大化しすぎて人口増加率が∞になることが人類滅亡の根拠である。

遊工学研究所　YUUKOUGAKU　Institute
Yre00736@nifty.ne.jp

２．環境･社会･経済のトリレンマ【課題】[9]

自由主義経済と民主主義は,成熟から爛熟期にある。**環境面**では,工業化率が増大しすぎ人類生息に必要な環境破壊（砂漠化,大気・海・地下水の汚染,水不足）が著しいこと。**社会面**では,あらゆる格差が絶望的に拡大しすぎている。人間が生きるためには,①必需品,②あると便利なもの,③情緒的商品（TV,車）,④贅沢品に分けられる。ここで,③と④は,快情緒＝依存症を伴う。これが過大に増大して地球資源の無駄使いが著しいこと。戦争の形態も IS など発生して解決不能である。**経済面**では,実体経済と金融経済の乖離が大

ⓒ 2016 Information Processing Society of Japan

きすぎて博徒的な経済現象を呈していることである。この３者を同時に満たすことが不可能な状態が現状で,将来はますます増大し,生物・人類と言語・文化の消滅の原因となる。これが,環境・社会・経済のトリレンマ現象である。

３．世界日本学の提唱　【対応策】[11.],図１

トリレンマ緩解のために,**人口増加率の逓減**と**工業化率の逓減**を前提とした**安寧空間創製システム**構想を提示した。そこで,「世界日本学」を提唱した。図１

西欧や日本の先進国は,この 2～3 世紀に地球資源の先食いをしてきた。トリレンマを緩解するのは,本来国連の役割だろうが SDG s 等を見ても寄り合い所帯で議論が先行して進んでいない。

近現代の歴史と国の特質を考慮すると難局を突破可能な「国・種」は,唯一日本だけである。大国意識の顕示ではなく,日本の義務・責務とした。その理由は,歴史大国,文化大国,経済大国,良質倫理大国,等である。東西の文化融合,他宗教の混在的な融合,要素還元論＋大局的感覚思考が可能な人材が存在することなどの東西融合化を諸相で行ってきた実績があることも大きな理由である。

これらは,**①生物と人類温存戦略** と**②文化と言語温存戦略**を前提とし,「世界日本語学」と定義した。地球資源の無駄使いは,トリレンマの増大を招き,①と②を否定し人類滅亡に直結している。

「世界日本学」の実態として日本・日本文化・日本語の知財モデリング体系の概念を構築した。第１図に示したように日本・日本語・日本文化の階層モデルを知財モデルベースによりトリレンマ緩解の方略とする。２大戦略の実現化で人類の安寧絵空間を構築するシステム的方法論である。日本・日本語・日本文化の階層構造をなすモデルベースを構築して,工業化率と人口増加率を制御し得る情報システムとして具現化する。

４．日本・日本語・日本文化モデルベース　[10]

日本主導の安寧空間の実現は,世界から餓死者を皆無にし,最小限の要件としても殺傷兵器の廃絶と制限,精神破壊薬物の廃絶された安寧空間創成を目的とする。世界システム・国際日本学・開発経済学・・等から「世界日本学」のモデル概念構築をし,日本・日本語・日本文化のモデリングを行う。

「世界日本学」のモデル概念は,「世界日本学」の実態として日本・日本語・日本文化の階層モデルベースとする。関連する総合辞書開発と最初のサイクルの知財探索・収集・分析・評価・編集が基幹モデルとなる。

① **日本モデル**は,近現代の歴史と伝説から現代までの歴史を総括した知財モデルをつくる。

その前提として社会倫理大国としての位置を確認することが急務である。現在の破棄すべき平和憲法を是正して,マッカーサーの統治による自虐史感を払拭しておくことが前提となる。昭和の歴史は,米国のフーバー大統領回想録や,数十年たって極秘文書が続々と公開されている。従来の常識が覆る事実が多い。そこで事実に基づく大幅な是正が必要である。現在の外交情勢とは,独立した事実と客観に基づく情報から歴史と憲法の是正を行うことが,自虐史観を払拭する唯一の方法である。そのうえで日本の歴史を伝説・神話から現代までの正当な歴史を整理し核とする。さらに国立国会図書館や総研大の成果などを LOD として知財化する。

②日本語モデルは,既存の経営日本語教育システムから汎用専門日本語教育システムに拡張する。

②日本文化モデル：総研大の複数の研究所の成果が十分にありそれらを第３図のように統合化した索引をメタモデルとする。日文研などの研究業績を総括（良質な日本研究の成果探索）

５．計画：IT システム　[1～8],図２

① GMAIS(Global Model Architecture Information System);1996 年特許出願済で,思考支援環境・集団意思決定支援・合意形成支援の提供しうる情報システム

②PIACS(Practical Intelligence Acquisition & Control System)；プロトタイプシステムは,経営日本語教育システムとして開発した。「実践知」や「智恵」を獲得するため「質の研究」による研究法を応用したシステムである。談話分析や会話分析からｽﾄｰﾘﾗｲﾝ創製する仕組みである。「質の研究」手法で PDCA サイクルでの知識・知恵を探索・発掘する。

③GMPIA(GMAIS with PIACS）；GMAIS と PIACS を統合化したシステムである。応用事例は,「経営日本語教育システム」である。

日本・日本文化・日本語の知財化の方略を具現化する。モデルベース主体で,知識・知恵の獲得や規範モデルの開発・実践・評価・ 蓄積・発信・管理・編集など知財蓄積管理と運用など一連の機能で諸活動の実績を評価し,結果を活動の次サイクルに反映させる。

④安寧空間創製システムの概念構築は,開発経済・国際日本・国際経済・地政学・海上権力史・文明論・認知学・社会倫理などの複合領域である。

SDA s ,ODA や JIICA などの活動実績から目標を実現するために 2 大戦略,2 大対策の安寧度評価尺度を定めて,適切なレベルによる政策や計画に反映させる。数年,数十年のレベルで巧みなバランスを保ち,負のスパイラルに落ち込まないような制御が必要である。図４

６．総合的知財管理：知財蓄積・管理・発信 実践法 [8～10],図５

「個≒人間・生物」や「種≒国・人種・文化・言語」の連鎖の断裂は,進化し得ない「種」の崩壊を招く可能性が大きい。世界日本モデルの知財化によるＣＯＥと IT DIPLOMACY 加えて日本の試練(負の遺産)を知財化して世界に発信する。

世界日本学モデルの運用管理の実態は,人,家族,組織。部族,部族,種,国,世界の活動を既存の ODA や JICA や国連の報告種から安寧空間構築のための目標・目的である 2 大戦略および対策の人口増加率逓減と工業化率逓減を活動実績から評価する。その結果,地球資源との対応で 2 対策の適正値で,次のサイクルの施策に反映させる。PDCA サイクルの連続でスパイラル的に効果が提言していくか否かが人類の温存に直結している。「安寧空間の創製」を啓蒙・政策・実践の定着 実効化には,リーダーが育つ 10～20 年ほどの継続の努力が必要であろう。

引用文献・参照文献

[１] 沢恒雄：グローバル･モデル･アーキテクチャ GMA デルによる情報システム GMAIS,特許公開番号：特開平 10－198647,1996

[２] 沢恒雄･和多田作一郎：知識時代の経営情報システム論,白桃書坊,59pp,1997

[３] 沢恒雄:戦略的地球環境経営システムの研究,英国ｳｪｰﾙｽﾞ大学修士論文,2002

[４] 沢恒雄:規範モデルとしての経営日本語教育コースの開発と実践(GMAIS(Global Model Architecture Information System)と PIACS (Practical Intelligence Acquisition & Control System)による統合日本語教育システム),桜美林大学大学院修士論文,2013

[５] 沢恒雄：知識社会における知的資産創製と管理の研究，愛知学泉大学紀要 第１号 PP.67-95,1999

[６] 沢恒雄:文化経済立国論(環境経営ｼｽﾃﾑ編),愛知学泉大学紀要第５号,PP.53 - 86,2002

[７] 沢恒雄:GMAIS による言語文化温存モデル構築法の研究,愛知学泉大学紀要第７号,2004

[８] 沢恒雄:GMAIS におけるﾓﾃﾞﾙ･ｼﾅﾘｵﾍﾞｰｽの研究,愛知学泉大学紀要第９号,PP.73－86,2006

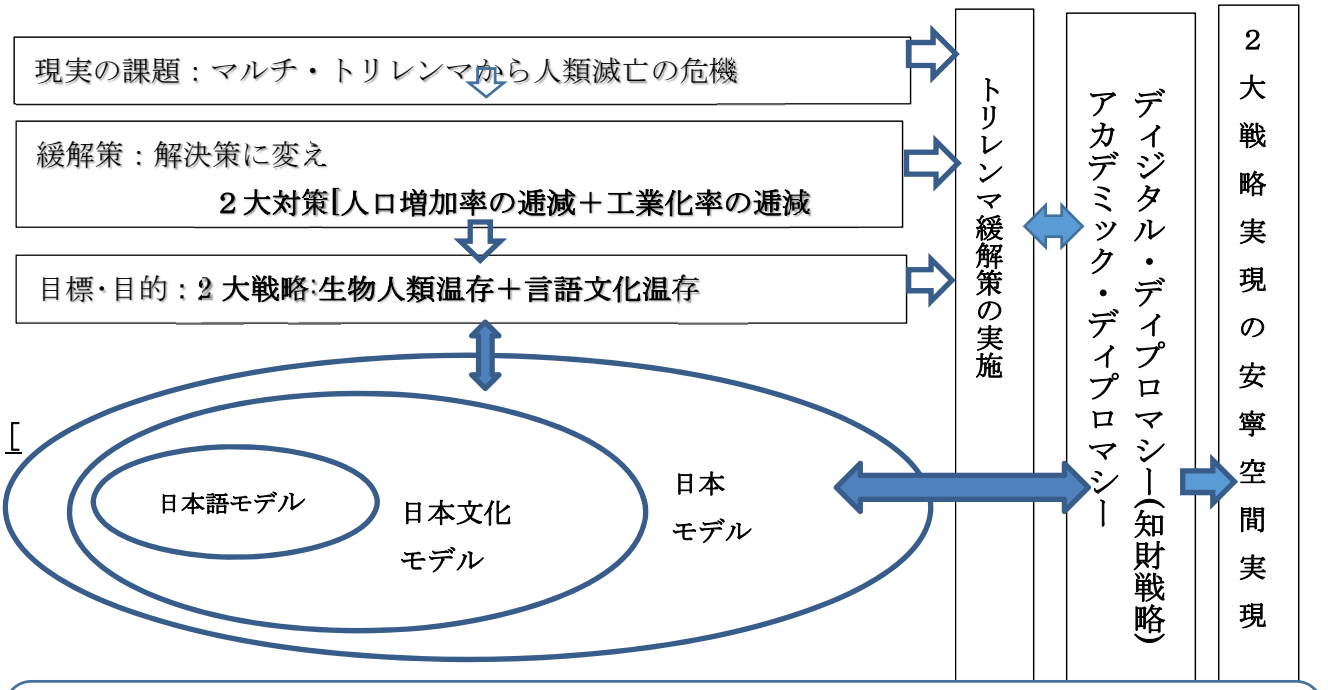
[９] 沢恒雄：GMAIS によるトリレンマ解緩論,情報知識学会全国大会,2010

[10] 沢恒雄：２大モデルによるトリレンマの艦戎(緩解)の研究,第 14 回情報科学技術フォーラム（FIT2015）,４Q･６

[11] 沢恒雄：世界日本学の提唱,第 14 回情報科学技術フォーラム（FIT2015）,４Q･７

[12] 山谷精志：政策評価，ミネルヴァ書房,P218

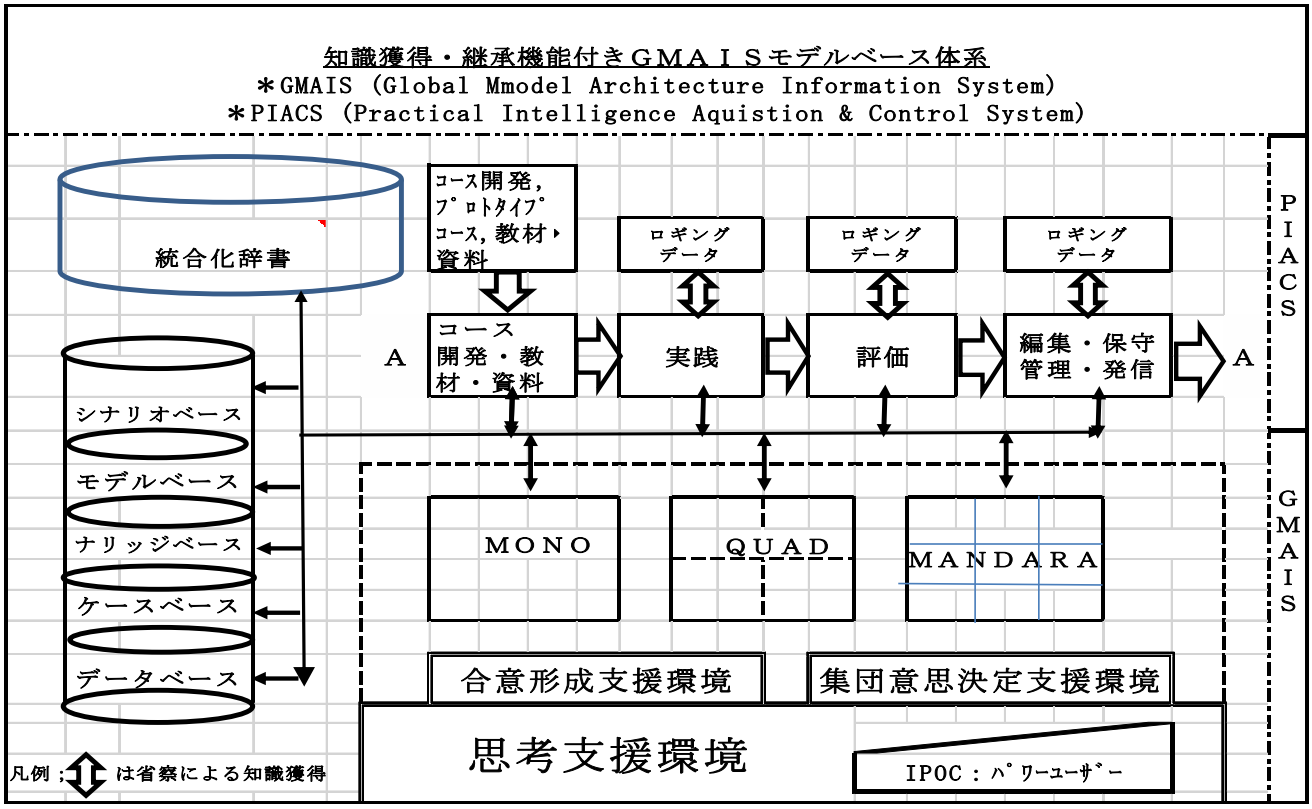
Vol.2016-MPS-108 No.13
Vol.2016-BIO-46 No.13
2016/7/5



ＧＭＰＩＡ＝ＧＭＡＩＳ＋ＰＩＡＣＳ⇔知財資源と知財資産による知財戦略：収集・編集・管理・発信・理解・認識・政策化と実践・評価

Ⅰ．日本文化モデル:日文研の研究成果や国際日本学の成果など 【縄文文化から自然風土と海に育まれた文化】
Ⅱ．日本語モデル:経営日本語教育システム(開発済)から汎用専門日本語教育システムへ拡大 【言霊】
Ⅲ．日本モデル:日本の良質な倫理や蓄積された先人の遺産 【伝説から連綿と続く歴史･日本の魂･国體】

図1： 世界日本学 【日本･日本語･日本文化】モデルを知財とした安寧空間創成構想



ⓒ 2016 Information Processing Society of Japan

Vol.2016-MPS-108 No.13
Vol.2016-BIO-46 No.13
2016/7/5

図２：GMPIA の概念　[PDCA サイクルで組織活動の質･量の改善･改良･改革]

日本文化モデルの主要な知財　（ＬＯＤのメタ情報）

区分		研究域	専門		人文学			人文科学			社会科学			自然科学		
			細目		哲学	史学	文学	心理学	文化人類学	地理学	社会	経済	政治	人類学	科学技術史	情報学
単位としての	時系列的な研究	1 能動研究	現代	明治以降の現代文化のﾀﾞｲﾅﾐｽﾞﾑ												
			伝統	歴史時代の長短期の文化変動												
			基層	歴史時代以前の変動												
	超時系列的な研究	2 構造研究	自然	環境,人												
			人間	心理,行動												
			社会	政治,経済,技術												
世界の中の		3 文化比較	生活	衣食住												
			制度	組織,国家,体制												
			思想	宗教,芸術												
	時系列的研究	4 文化関係研究	旧交圏Ⅰ	古代以来												
			旧交圏Ⅱ	大航海時代以来												
			新交圏	近代以降												
時系列的･超時系列的研究		5 文化情報	外国での日本研究Ⅰ	欧米												
			外国での日本研究Ⅱ	被欧米諸国												
			日本での日本研究	日本												

参考;「新･日本学誕生;国際日本文化研究センターの 25 年」(2012),猪木武徳,門川学芸出版(P. 144 と P. 147)を編集・総括。

図３：　日本文化モデルを知財とする場合のＬＯＤメタ情報の事例

ⓒ 2016 Information Processing Society of Japan

NO.	目　　標
1	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
2	飢餓を終わらせ,食糧安全保障および栄養改善を実現し,持続可能な農業を促進する
3	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し,福祉を促進する
4	すべての人々への包括的かつ公平な質の高い教育を提供し,生涯学習の機会を促進する
5	ジェンダー平等を達成し,すべての女性および女子のエンパワーメントを行う
6	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
7	すべての人々の,安価かつ信頼できる持続可能な現代的エネルギーへのアクセスを確保 する
8	包括的かつ持続可能な経済成長,およびすべての人々の完全かつ生産的な雇用と適切な雇用を促進する
9	レジリエントなインフラ構築,包括的かつ持続可能な産業化の促進,およびイノベーシ ョンの拡大を図る
10	各国内および各国間の不平等を是正する
11	包括的で安全かつレジリエントで持続可能な都市および人間居住を実現する
12	持続可能な生産消費形態を確保する
13	気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる＊
14	持続可能な開発のために海洋資源を保全し,持続的に利用する
15	陸域生態系の保護・回復・持続可能な利用の推進,森林の持続可能な管理,砂漠化への 対処, ならびに土地の劣化の阻止・防止および生物多様性の損失の阻止を促進する
16	持続可能な開発のための平和で包括的な社会の促進,すべての人々への司法へのアクセ ス提供,およびあらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包括的な制度の構築を 図る
17	持続可能な開発のための実施手段を強化し,グローバル・パートナーシップを活性化する
16＊補足	*国連気候変動枠組条約（UNFCCC）が,気候変動への世界的対応について交渉を行う一義的な 国際的,政府間対話の場であると認識している。

図４　持続可能な開発目標　（持続可能な開発目標(SDGs)，国連開発計画(UNDP) より

定義	項目	説明（ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸ･ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏｼｰ）	ＧＭＰＩＡ対応(ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ･ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏｼｰ)	記　事
1	**活動の最終的な目標**	自国の対外的な利益と目的の達成に資すること。短期的には,政策広報の情報発信で国際的な理解であり,中期的には人物交流・自国語教育普及など	日本が経済・文化・もの創り大国になりえた奉仕を含めて,生物人類と言語文化の温存を目指した安寧空間の実現を目指す。活動組織は,ＮＧＯ／ＮＰＯ／個人が担う。	外務省の弱腰外交と肝心なところで逃げ腰
2	**活動の第１義的な目的**	自国のプレゼンスを高め,イメージを向上させ,自国の理解を深める。自国の重視する価値の普及を進める。	祭り,遊び,匠,武士道,多神教・異文化の融合化の実現した懐の深さがあり,緩解策を提言できる唯一の国であること。	存在感,好感度,知識
3	**活動の累計**	海外の個人及び組織と関係を構築し,対話を持ち,交流するなどの形で関わったり,多様なメディアを通じて情報を発信したりすること	日本・日本文化・日本語教育を一体にし飢餓・難民排出国の数十年後のリーダー候補を日本で,日本が,教育育成する。覇権や上から目線の姿勢ではなく緒方貞子式活動	日本は良い国という実感を持ち自国も真似るという人財育成
4	**日本の遺産**	**負の遺産**：霞が関・外務省の岩盤機構と政治不在。靖国・憲法改正・東京裁判・靖国門外・拉致被害者・南京・慰安婦など許しがたき不作為の罪は大きい。	**正の遺産**：戦争・原爆・銃火器・麻薬の規制,無奴隷制度,万世一系,神仏哲学など一体の宗教観,大災害時の無略奪,自販機・置き引きの極小,先ず信ずる社会倫理	両者は,表裏の関係で良いことずくめでないことも伝達すべき

図５：パブリック・ディプロマシーとディジタル・ディプロマシーの定義と総括

ⓒ 2016 Information Processing Society of Japan